

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-08-3/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

成 果

1 無形文化財、文化財保存技術の伝承研究

文化財保護委員会が作成した音声資料について調査を行い、能楽囃子の記録について、第3回無形文化遺産部公開学術講座で発表した。

徳川美術館、岩国市吉川史料館、下関市立長府博物館、愛媛県村上水軍博物館などが所収する龍笛・能管についてX線透過撮影調査を行い、村上水軍博物館、吉川史料館、徳川美術館の能管は、従来とは異なる工法で製作されていることが判明した。従来の工法から、龍笛の破損箇所を修理する過程で能管が派生した、という説が生まれていたが、この説に再考を要する発見である。成果は、東洋音楽学会第59会大会で口頭発表し、『無形文化遺産研究報告』に論文を掲載した。また、3月から研究所1階ロビーで、これに関するパネル展示を行っている。

無形文化遺産部所蔵の音声資料、昭和期の歌舞伎写真を整理し、所蔵一覧等を『無形文化遺産研究報告』に概説した。また、長く雑誌『演劇界』のグラビアを担当していた写真家梅村豊氏(1923—2007)撮影の写真およびネガの整理を進めている。

工芸技術に関しては、文化財保護法における工芸技術の保護の変遷、特に染織分野に関する指定・選定について調査・整理し、『無形文化遺産研究報告』で公表した。また、名物切の一種として室町時代に舶載された黄緞と海気の受容について第23回国際服飾学会議で発表した。葛布製造の現状、明治以降の京焼について調査研究を行い、それぞれ『無形文化遺産研究報告』で公表した。

2 無形文化財記録作成事業

① 近年の伝承に変化が著しい宝生流と喜多流の謡曲について、昨年度にひきつづき、流儀の最長老今井泰男師による番謡、近藤乾之助師ほかによる番謡、喜多六平太師による番謡の音声記録を行った。

「柏崎」「八島」「盛久」「杜若」「清経」「善知鳥」「狸々」「花月」「班女」「阿漕」「小督」「野守」
「三山」「兼平」「葛城」「黒塚」「老松」「鉄輪」「唐船」「張良」「撰待」「望月」「巴」「羽衣」

(以上今井泰男 24曲 収録順)

「大原御幸」(以上近藤乾之助ほか)

「巴」「邯鄲」「采女」(以上喜多六平太)

② 連続口演の機会が激減している講談について、宝井馬琴師と一龍齋貞水師による実演記録を作成した。

『仙石騒動』青柳丸・烈婦おぬい・主君毒殺・神谷転登場(一龍齋貞水)

『文化白浪』薊小僧の生い立ち・薊小僧の由来・三囲の殺し・薊小僧の親子別れ(一龍齋貞水)

『三方ヶ原軍記』三十六段の物見(宝井馬琴)

3 公開学術講座の開催

12月16日、国立能楽堂大講義室において「音声資料からたどる能の変遷—文化財保護委員会作成の音声資

料をめぐって一」と題して第3回無形文化遺産部公開学術講座を行った。文化財保護委員会による記録作成が開始された2年目、昭和26年度に収録された能の囃子を中心に録音技術の変遷に触れながら講演をおこなった。入場者数223名。

プログラム

- 講演Ⅰ 日本の音声資料とSPレコードの五十年 飯島満
 講演Ⅱ 明治・大正・昭和の名人たち 高桑いづみ

4 無形文化遺産保護分野での国際的研究交流

無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室と合意書を結び、研究員の相互派遣を実施した。

論文等掲載数 4件

- ・飯島満「文楽忠臣蔵四段目の由良助」『歌舞伎 研究と批評』40 pp.28-44 歌舞伎学会 08.9.10
- ・飯島満「文楽の映像資料」『国文学解釈と教材の研究 臨時増刊 文楽一人形浄瑠璃への招待一』 pp.56-61 学燈社 08.10.25
- ・高桑いづみ「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」『無形文化遺産部研究報告』第3号 pp.1-20 09.3
- ・菊池理予「無形文化遺産としての工芸技術—染織分野を中心として—」『無形文化遺産研究報告』第3号 pp.37-59 09.3

発表件数 7件

- ・菊池理予「黄緞と海気に関する歴史的研究」第23回国際服飾学術会議 08.8.21
- ・高桑いづみ「X線調査から判明した能管・龍笛の制法」東洋音楽学会第59回大会 08.11.16
- ・菊池理予「無形文化遺産としての工芸技術—染織分野を中心として—」第3回総合研究会 08.12.2
- ・飯島満「古典芸能の伝承と変遷—一人形浄瑠璃文楽の場合—」第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 東京国立博物館平成館大講堂 08.12.7
- ・高桑いづみ「能島村上家伝来横笛の歴史的意義」瀬戸内しまなみ大学「水軍講座」 08.12.14
- ・飯島満「日本の音声資料とSPレコードの五十年」第3回無形文化遺産部公開学術講座 08.12.16
- ・高桑いづみ「明治・大正・昭和の名人たち」第3回無形文化遺産部公開学術講座 08.12.16

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、菊池理予、綿貫潤、星野厚子、土田牧子（以上、無形文化遺産部）、福岡裕子、森下愛子（以上、客員研究員）